

平成 26 年度文学研究科共同研究経費申請書

下記の通り文学研究科共同研究経費を申請します。

研究代表者 (申請者)氏名	橋本順光	専門分野・ コース名	比較文学	職名	准教授
研究課題名	近代日本における対外観とその環流をめぐる総合的研究				
研究目的					
〔研究の目的、その意義と予想される成果、新規科研費獲得に向けた準備状況などを記入してください。昨年度科研を申請して不採択になった場合は、研究継続・再申請準備状況も記入してください。〕					
対外観の「還」流の個別研究から「環」流の総合的研究に向けて					
第一の目的は、近代日本における対外観を対象地域との往「還」だけではなく、他の地域や時代との複雑な交渉と転移を繰り返しながら、循環「環」する現象として明らかにすることにある。サイードの『オリエンタリズム』以降、東洋の表象を複数の「東洋」との交渉で形成される往還現象とみなすことはすでに常識となった。昨今では、複数の地域と時代のオリエンタリズムが再編された力学に注目し、自明とされた領域の異種混交性とその抑圧とを明らかにする研究も多い。 これらの成果と方法を応用し、近代日本の外国イメージとして蓄積されてきた研究と資料とを、二国間の「還」流ではなく多国間の「環」流として再編し、その事例を提供したい。たとえば明治以降の日本では、タイはインドとならぶ仏教国としてみなされたが、そのアジア主義的関心は、タイが英領インドの隣国であったことと決して無関係ではない。そんな日本のアジア主義がインドの反英運動と不即不離の関係にあるとは周知のことだが、アジア主義との関連で、いち早く反英闘争を開始していたアイルランドがインドおよび日本で大きな関心を持たれたこと、またインドでは従来と異なり、ギリシアからの影響やその近接性ではなく、東アジアとの紐帯を強調するようになったことは、タイ・イメージの変化と複合的に研究されることはなかった。そこで第二の目的として、日タイにおける還流の事例を主軸に、イギリス帝国やアイルランド、それにギリシアの事例研究を積み重ね、多国間の環流を指摘したい。そうすることでひいては「日本」という境界の多層性を明らかにでき、国際シンポジウムの開催を視野にいたれた本格的な共同研究へと発展が予想されよう。 具体的には以下の陣容で研究を進める。日タイについては、合山氏による江戸時代の漢詩文におけるタイの表象と明治以降の流用の例と、岩井氏による 1930 年代以降のタイにおける日本の文化外交の例、そして久保田氏による 1960 年代以降の日本の作家が旅し描きなおしたタイ・イメージとそのインフラの例を、タイの専門家であるメータセート氏、平松氏との討議によって立体的にとらえなおすことを試みる。カルディ氏には、日本の近現代文学におけるギリシア像の例、鈴木氏にはアイルランドの事例、橋本はインドとの関係からみた英国の事例について、それぞれ成果を発表し、還流から環流へと対外観を総合的な研究へ発展させられるよう努める。					
基盤形成としての文献購入および資料複写とその意義					
予算の規模以上に共同研究に資するよう、旅費を必要最低限度に抑え、メンバーは基本的に大学の関係者とし、集中講義に付随してシンポジウムを行うよう工夫した。対外観については、観光地案内や私的に刊行された紀行文、外国で出版された日本語文献など、国会図書館や他大学にも所蔵がない高価なものが極めて多い。戦前との連続性を調査するためには、1950－1960 年代の文献やそれらに取材したポピュラーカルチャー（映画や漫画など）も考慮に入れる必要がある。予算は執行可能な岩井・合山・橋本に配分するが、300 千円では到底十分でなく、購入と複写に際しては共同研究者から希望を集め、適宜、相談しながら依頼する。また他のメンバーと共有を図り、他機関からの現物取り寄せなどにも可能な限り対応できるよう、基本的に備品登録を行う。学際的な性格上、従来の文献だけでは対応できず、文献整備が今後の基盤形成に必須なことはいままでもない。					

研究計画・方法

〔研究計画・方法を具体的かつ詳細に記述してください。また、研究経費（次ページの支出計画欄に記載）の必要性・妥当性を明確にしてください。〕

研究方法

研究目的で記したように、共同研究メンバーからの希望と分担に応じて文献を購入し、各自の専門分野における対外観と対象地域との二国間往「還」の事例を整理しモデル化を図ることで、多国間の「環」流研究への可能性を探る。以下に詳述するように、8月のシンポジウムでは日タイの事例を中心に「還」流をモデル化し、9月のシンポジウムでその成果を中軸に据えて「環」流の事例を探り、1月にはそれらの検討と今後の可能性を討議する。

研究計画

2014年8月26日 タイ国の日本研究国際シンポジウム2014で発表および研究打ち合わせ

タイ国チュラーロンコーン大学が主催する国際シンポジウムにて、合山氏、岩井氏、久保田氏、橋本がそれぞれ日・タイ交流に関する研究成果を発表する。なお合山氏、久保田氏、橋本は、山田長政に関する研究成果を予定しており、メータセート氏のご配慮で1つのセッションで3人まとめて発表することが可能になった。将来、これを原形にして国際シンポジウムが開催できるよう、会場では、参加予定のメータセート氏、平松氏を中心にフロアや各関係者と討議を重ね、基盤の形成に努める。

なお岩井氏、合山氏、橋本の渡航費については、申請中の未来知創造プログラムの「日タイ文化交流史の研究ー山田長政から柳澤健までー」が採択されれば、そこから支出する予定である（不採択の場合には、本申請案から渡航費の補助を支出する予定である）。ただ、未来知創造プログラムでは年度は3年間、参加メンバーは3人までとされており、題目にあるように相対的に成果が着実に見込まれる日タイ文化の「還」流に特化している。したがって本申請案のような多国間の「環」流に関する可能性の吟味は、将来性と重要性は大差ないにもかかわらず、人数の点でも予算の点でも実行や考慮は難しいといわざるをえない。実際、未来知創造プログラムの申請案では、申請者3人のタイへの渡航費と研究会およびシンポジウムの実行費だけで、ほぼ年度の規定予算に等しくなったため、文献資料はほとんど十分に購入することができない。

一方で、この機会を最大限に利用することで、後述する9月26日のシンポジウムおよび今後の共同研究について詳細な打ち合わせを行う。当日は、合山氏、岩井氏、久保田氏、平松氏、メータセート氏、橋本のあいだで成果を共有し、文献資料などの調査の分担を行う。具体的には、日タイの文化「還」流の事例研究を整理し、モデル化を図ることで、9月26日のシンポジウムにてそれらを「環」流研究へと発展できるよう努める。このように本申請案は、未来知創造プログラムへの申請案と相補的な関係にあり、また将来の共同研究に向けて相乗効果が期待できる。

2014年9月26日 文学研究科での公開シンポジウムの開催

鈴木暁世氏の文学研究科における集中講義の機会を利用して、近現代における日本の対外観とその環流について、メンバー全員が参加予定の公開シンポジウムを開催する。開催に際しては、文学研究科の共催を申請し、広く参加者を募る。鈴木氏が英国・アイルランド、久保田氏がタイ、カルディ氏がギリシアと、それぞれの事例研究を発表し、橋本は対インド問題が日英関係におよぼした事例をとりあげる。幸いにもメータセート氏が別件で来日することが可能かもしれないという知らせを受けたため、招聘外国人滞在費を計上した。これらの事例研究をもとに、広く学内学外のスタッフと討議を重ねることで、双方向の還流から多国間の環流への事例と研究の可能性に向けて、基盤形成を図る。

2014年1月下旬 文学研究科にて研究の検討と討議

これら8月と9月の研究会の成果をふまえ、参加可能なメンバーのあいだで、研究成果の共有と今後の検討を行う。とりわけ環流の事例研究が可能な分野や時代について可能性を探る。

研究組織

氏名	年齢	所属機関・部局・職名	専門分野
橋本順光		文学研究科・准教授	日英比較文学
合山林太郎		コミュニケーションデザインセンター/ (兼任) 文学研究科・講師	日本漢文学 日本近世文学
岩井茂樹		日本語日本文化教育センター・准教授	日本文化史 比較文化学
ルチャーナ・カルディ (Luciana Cardi)		言語文化研究科・特任講師 (常勤)	日本近現代文学・比較文学
平松秀樹		文学研究科・元非常勤講師	タイ文学 比較文学
鈴木暁世		金沢大学・人間社会環境研究科・准教授 文学研究科・非常勤講師	日本近代文学 比較文学
久保田裕子		福岡教育大学・教育学部・教授	日本近現代文学・比較文学
ナムティップ・メータセート (Namthip Methasate)		タイ国・チュラーロンコーン大学・文学部・准教授	日本近現代文学

※1行目に研究代表者(申請者)を記入してください。記入欄が足りない場合は追加してください。

※本学関係者については所属機関(「大阪大学」)は省略してください。

研究スケジュール

時期	内容
7月下旬から8月上旬	共同研究メンバーから希望を募り、購入図書と文献複写について研究打ち合わせを兼ねた依頼作業(参加予定者・合山・岩井・橋本)
8月26日	タイ国チュラーロンコーン大学主催「日本研究国際シンポジウム 2014」にて発表および討議(参加者・メータセート・久保田・岩井・合山・橋本)
9月26日	文学研究科にて阪大比較文学会主催の公開シンポジウム (参加予定者・鈴木・カルディ・久保田・平松・メータセート・合山・岩井・橋本)
10月下旬	共同研究メンバーから希望を募り、購入図書と文献複写について打ち合わせを兼ねた依頼作業(参加予定者・合山・岩井・橋本)
1月下旬	共同研究の総括と検討 (参加予定者・岩井・合山・カルディ・平松・久保田・鈴木・橋本)

※記入欄の数・幅が足りない場合は適宜追加・拡大してください。

研究経費の支出計画（単位：千円）

設備備品費		書籍	300 千円
旅費	国内出張	福岡・大阪間（1 名 1 泊 50 千円）×2 回 金沢・大阪間（1 名 1 泊 25 千円）×1 回	125 千円
	海外出張		千円
	外国招聘		千円
人件費	人件費		千円
	謝金	9 月 26 日シンポジウム開催に際し院生 2 名を雇用	10 千円
事業推進費	消耗品	書籍・国会図書館などの文献複写費 （保管のための複写物の製本代を含む）	90 千円
	印刷製本		千円
	通信		千円
	会議		千円
	招聘外国人滞在費	1 泊 2 日	20 千円
その他			千円
合 計			545 千円

外部資金獲得・応募状況（最近 5 年間のものまたは応募予定のもの）

外部資金の名称 と研究期間	研究課題名・ 研究代表者氏名	全研究期間の 総研究費 （単位：千円）	採 否	本申請との関連性
未来知創造 プログラム	日タイ文化交流史の研究－山田長政から柳澤健まで－	3000	申 請 中	タイ・イメージに特化して、それを日タイ交流から再考する点で相補的な関係にあり、環流研究に向けて相乗効果が見込まれる
科学研究費 基盤研究（C）	世紀転換期の英国における黄禍論とその図像に関する比較文学的研究	4680	採	英国における東アジア（図）像を日本との相関から考える点で主題は異なるが、成果や方法論の応用が期待できる。
科学研究費 基盤研究（C）	20 世紀初頭のインド旅行記におけるアジア主義と黄禍論の日英比較研究	4030	採	日英におけるインド像を、日英印という多国間交渉による環流としてとらえる点で、その方法と成果の応用が期待できる。

